

「復活の主に出会う」

ヨハネによる福音書二〇章一九節～三一節

南山教会 二〇二〇年四月一九日

村山盛芳

ある葬儀社から手紙が来ました。「葬儀における新型コロナウイルスへの対応について」というものです。ご遺体の扱いという箇所には、「感染者のご遺体は速やかに非透過性の納体袋に納め、すぐに納棺する」や「感染者のご遺体は速やかに火葬を行う」とか「収骨（お骨揚げ）を御遺体が行うことは出来ない」などが述べられていました。実情として、「参列者を極力減らす」、「一日葬とする」、「教会での滞在時間を減らす」、「マスク着用の推奨」、「式場の消毒」など具体的な提案がなされ、「葬儀式場での感染防止」が第一で臨んでとありました。コロナウィルスの影響が愛する人との地上でのお別れにまで及んでいることを改めて感じました。ご遺族の心中を慮りながら、感染することと感染させてしまうことの両方に注意が必要だと思っています。

イエスがキリストとしてよみがえられた時、弟子たちは、「ユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけて」（一九節）、閉じこもっていました。イエスは十字架にかかり、死んでそのまま。ではありません。よみがえられたのです。復活して弟子たちに現れました。しかし、弟子たちは、こわがって、家の戸を閉めて、中に入ったまま、外に出ようとしませませんでした。私たちにも恐れがあります。まわりをこわがっています。自分の何に閉じこもって出ようとはしません。人間の恐れには、きりがありません。いつも、まわりを恐れて生活

しています。人の顔色、まわりの噂、上役、友人、家族、死を恐れ、不安に暮らしてはいないでしようか。

一九節の続きには、「そこへ、イエスが来て真ん中に立ち『あなたがたに平和があるように』と言われた」のです。「平和があるように」とは、ユダヤ人が普通にする挨拶「シャローム」ですが、不安の反対が、平安、平和に他ならないのです。復活の主は、不安の真つ只中に立つて、私たちに平和を告げます。神に造られた私たちは、神を見いだし、神に到達する時、平安を得られるのです。復活とは、私たちに本当の平安を与える、主の到来でなくて何でしょう。

しかし、不安は、人間が人間として生きていく上に大切なものです。生存の不安は、いわゆる恐怖とは違います。例えば怖いものが現れて恐ろしいので悲鳴を上げる、というのは、過ぎてしまえばどうということはありません。けれども、生存につきまとう根本的の不安は、一生つきまといまいます。死に向かつてゆく人間存在は、不安なのです。忙しさにまぎれて忘れていくか、しよっちゅうそれを感じるかの違いはあっても、人はみんな同じではないでしょうか。イエス・キリストの復活は、この人間存在の根本に横たわる不安に、神が訪れたのです。だから、復活の主はまず「あなた方に平和があるように」と言われたのです。イエスの存在は、マタイによる福音書一章二三節にあるように「インマヌエル、神は我らと共におられる」と言い直しても良いのです。「神が私たちと一緒に」、それがイエス・キリストの意味なのです。この世の不安は、永遠なるものが欠けているのです。永遠性の欠如が不安を生むのです。そして、死は、最後の不安の原因です。死は、人間存在の有限性を知らせる、具体的なものだからです。しかし、死は、私たち人間の生を真剣なものにします。そして、死の

向こう側からの到来、それが復活の主なのです。復活の主は、死を突き抜けて、私たち人間存在に、「神が私たちと共に」を告げるのです。あなたは恐れる必要はない、永遠者が共にいる、と。

トマスは懐疑主義者です。疑いは、悪いものではありません。それを通して本当の信仰に至るからです。疑う者は、実証主義者でもあります。自分の手しか信じません。しかし、復活の主が現れた時、トマスは実際に指を突っ込んだのでしょうか、手を差し出したのでしょうか。そうではありません。ただ、「わたしの主、わたしの神よ」（二八節）と言ったのです。復活にふさわしいことは、実験ではありません。信仰とは、自分の存在をかけることです。見て信じるのではなく、見ないで信じることなのです。

今年の夏に行われる予定だった、日韓教会青少年交流ツアーをどうするかというやりとりのメールで、日本基督教会の井上一雄牧師のメールにこう書かれていました。「今回のウィルス問題によって、世界と教会に突きつけられた問題は、『分断という試練』ではないかと私は考えています。感染した方々と感染していない人たちとの間が分断され、感染症でお亡くなりになった方の多くが愛する人達と面会できないまま最期を迎えられました。教会もまた、高齢者・基礎疾患を抱える人・通うリスクを抱える人・家族のことを強く念頭に置かねばならない人が一緒に礼拝できなくなりしました。『お互いに感染しているかも知れない』と思わなければならないことそのものが、異常な事態です。しかし、教会はこれまで、主イエスとの別離という『分断』を経験していたことを改めて思います。聖霊において分断を乗り越え、主によって一つに結ばれている、その恵みを感謝せずにはおれません。」と示してくださいました。その通りだと思います。

私たちの信じる神が、イエスの復活を通して示してくださった「神の愛」があります。それに基づいて生きる者として、神と人をそして人と人を、結び合わせる「宗教」religionの本来の働きへ召されています。復活の主と出会う恵みを分かち合いましょう。